

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170101998		
法人名	社会福祉法人イーストヘルスケアソサエティ		
事業所名	グループホーム スマイル		
所在地	岐阜県岐阜市芥見野畑1丁目25番地		
自己評価作成日	平成27年11月2日	評価結果市町村受理日	平成28年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_1_2015_022_kani=true&ij_gyosvoCd=2170101998-00&PrEfCd=21&Versi onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成27年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設で生活しながらも生き生きとした表情をされるよう努めています。入浴も10時から昼食をはさみ15時まで時間をもうけ週3回住みな時間に入っていたき話をしながらの見守りとしています。また、ドライヤーがけ洗濯物たたみ他、家事仕事も利用者様同士助け合いながら作業され、その事が自立支援につながっています。趣味に関しては思ったとおりに出来なくなっていますが、自信と無くされないよう一人ひとり対応して、今の生活の質が高められるようにしたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者の尊厳を守り生きがいのある生活を送れるように取り組んでいる。常に利用者自らの意思で決められるように答えやすい話し方や声掛けに注意して、必ず了解を得てから行動するように心掛けている。どのような些細なことも自由を奪っていないかと話し合い、利用者の行動をすぐに危険ととらえず出来る限り見守ることで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員間では互いの気持ちを大切に、仕事のやり方に問題が生じた場合でもみんなで話し合い考え方向を決めている。母体法人が医療機関であり、健康管理や緊急時の対応など利用者や家族・職員の安心にも繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念のもとにグループホームとしての目標に取り組み、会議その他意見をのべて共有に努めている。	利用者が今まで通りの生きがいのある生活を送れるように支援している。会議で利用者の現状や取り組みなど話し合い、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に一度の自治会行事「いきいきサロン」に参加している。自治会との連絡も欠かさず活動の情報を集めている。また、保育園の来所もあり楽しまれている。	地域貢献委員会を作り、地域との交流を考えている。自治会と事業所主催の「いきいきサロン」に互いに参加している。夏祭りのお楽しみ券を小学生に配布して事業所に来てもらい、利用者と交流する機会を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の夏祭り等のチラシを配布したり、また、月に一度地域貢献としてのサロンを1階にて開催し、運営理念の説明、認知症についての理解等努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の会議の開催ができるよう外部の方と連絡をとり努めています。取組報告とメンバーからの意見に耳を傾け支援の向上に活かしている。	事業所からは活動や行事・ヒヤリハットなどの報告をして、参加者からはいろいろな意見が出されている。また、地域との連絡や情報を得る場ともなっている。しかし、2ヶ月に一度の会議の開催ができていない。	運営推進会議の参加メンバーに会議開催の協力を依頼して、2ヶ月に一度は開催することを望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や市町村からの送られている情報助言等の協力を得ている。職員全員に申し送りとして伝え共有されている。	市担当者とは研修会などで必ず言葉を交わし、情報交換や相談をして、話しやすい関係を築いている。家族の要望や困りごとを市に取り次ぐこととしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に一度の第3水曜日に施設内にて、拘束防止員会を開催し話し合っている。その結果を職員が共有し理解に努めている。利用者様の行動のなかですぐに危険ととらえずできる限り見守り日常生活を送っていたりできるように考えている。	利用者の行動を制限しないで見守る介護に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。車椅子に座った時、クッションの当て方が窮屈になっているが、これは拘束にならないかなど細かな事例を取り上げて話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し話し合っている。また虐待とは行為だけでなく、どのようなケアも含まれているのか考え、虐待の自覚に対する危険の認識に努めている。		

グループホーム スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会や施設研修、施設書研修で学んでいる。その内容を会議で話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にホーム内を見学していただいたり、ご利用者、家族様の不安や疑問に丁寧に答えている。契約時には文章を確認していただき十分な説明を行い、理解納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会議は3か月1回開催しています。ホームからの活動報告、今後の活動予定等を連絡している、家族の意見、要望を聞いて意見を受け止め検討し対応している。	家族会議や面会時に意見や要望を聞いている。要望によりトイレに近い居室に移動してもらいトイレ誘導を頻繁に行っている。家族から地域やボランティアの情報をもらい、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議、グループホーム会議にて、職員からの意見を聴き、提案については管理者ほか実現できるように協力している。	管理者は、会議で出た職員の要望などを法人の運営会議で提案している。職員が、法人内の各委員会に所属して意見や提案を出せる機会を設けている。行事の要望が出されることが多く、実現させている。	
12		代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自向上心を持って働けるような環境や条件の整備に努め、施設内、外で多くの研修に参加できるよう機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員に外部の研修情報を提供し必要な研修は参加を促し指示している。また、資格取得についても施設内で勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員は、協議会を通じて同業者と交流を図り、勉強会にも参加しサービスの質の向上に努めている。		

グループホーム スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活状況を把握するよう努め本院、ご家族様の求められている事、不安を理解しようと工夫している。また、思いに向き合い職員が受け入れるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望を受け止め、どのような対応ができるか職員と話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様の不安な思いを確認し、信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人を尊重しながら、どんな所に行きたいか、何を食べたいかを話し合いも行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方の不安も伺い、本人様の様子などの情報も伝えて安心できる関係作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と外出したり、友人と会ったりといきいきとした表情で生活されている。またスーパーなども買い物に行っている。	日々の会話や家族の情報から馴染みの人や場所の把握をして、行きたい所や買い物などに出かけている。家族の協力を得て、友人に訪問してもらったり、行きつけの美容院を利用できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士声を掛けあい支えあえるが、気分体調によって勤定が変化する事もあるので注意深く見守っている。		

グループホーム スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等でやむ得なくご利用が中止となった場合は、家族様の相談に乗って思いを支援している。その他の場合にも利用後のご本人の様子を確認し、必要に応じた体制作りにも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉だけでなく、動作や表情から思いを知るように心掛けている。アイコンタクトや返事しかできないご利用者様にも声掛けをしてから本人に合わせて介助するようにしている。	日々の暮らしの中や家族から以前の生活の様子を聞いて希望や意向を把握している。意思表示が困難な方には答えやすいように話しかけている。編み物がしたいという利用者のために道具を用意して支援した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報だけでなく、入所後の本人の話や会話、家族様との話し合いから想像できる生活歴も情報として把握し、サービスに活かせるよう本院、家族、職員で話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日24時間の過ごし方やバイタルチェックで生活のリズムや体調を知り、本人に合わせた生活ができるように支援内容も変えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、アセスメント、介護記録を基に話し合い、本人や家族様の意見が反映された介護計画の作成に努めている。	本人・家族の希望を聞いて、モニタリングを基に担当者会議を開き介護計画を作成している。状態変化時には医師や看護師に相談しながら、必要に応じ見直し、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録からの気づきや日常のケアの中からの気づきをグループホーム会議やその日の職員間で話しあったりし、共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族様の状況に応じて、通院や送迎等に対応し、必要物品の購入も援助している。入院時には、家族の代わりに洗濯や情報収集に努めている。		

グループホーム スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる踊りや歌などでリフレッシュしていただいている。2か月に1回「いきいきサロン」にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は、家族様の付添のもと受診されている。緊急時は、本人、家族様と相談の上、職員付添で受診を援助している。	母体法人の総合病院をかかりつけ医とする利用者が多い。利用者の状態を家族も把握できるように受診は家族が付き添っている。病状によっては、職員も同行したり、医師に直接連絡したりして情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と情報や気づきを連絡、相談できるような体制にあり、適切な情報も伝達している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用様が入院したとき、安心して治療が受けられるよう病院との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に方針を伝え継続した医療行為が必要であれば、ご本人、ご家族と相談の上入院を確かめている。重度化についてはできる限り今の生活を続けられるように支援し、勉強会を行っている。	契約時に医療行為が必要な看取りはしないことなどの方針を説明している。母体の医療機関への入院や併設の特別養護老人ホームへの転所なども含め利用者・家族とは段階毎に話し合い今後の方針を決めている。家族会でも議題に挙げて説明をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに協力病院や連絡先を明記し、施設内研修で応急手当など勉強会を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の利用者様参加にて昼夜を想定した避難訓練を施設全体で実施している。実施後、反省会等を行っている。	利用者も参加して夜間想定も含めた避難訓練を行っている。備蓄もあり、事業所を含む建物全体を地域の避難場所として登録し、地域の防災訓練にも参加しているが、地域住民の協力が少ない。	地域への働きかけを積極的に行い、災害時に互いに協力できる体制を築くことを望む。

グループホーム スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の気持ちを考え、さりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。排泄時には、プライバシーに気をつけ対応する。	職員は、一人ひとりを尊重し、利用者の気持ちを聞くように問いかけ、必ず了解を得てから行動している。しかし、居室入り口ドアが一部透明ガラスとなっているため、プライバシーが損なわれる恐れがある。	透明ガラス部分が、プライバシーへの配慮が確保されているか、全職員で話し合い検討工夫をすることを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に合わせて声を掛け意思表示が困難な方には本人が答えやすく、選びやすいように働きかけている。難聴の方には顔を未定耳元で話すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に合った生活リズムを大切にし、起床就寝時間は尊重されている。買い物等個人の希望に沿えるように援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回の施設内の理美容に行っていただけるように援助している。きがえは本人の意向で決定しており、自己決定しにくい利用者様には職員と一緒に考え手伝うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設の管理栄養士が献立をたてていて、用意された食材を職員が調理している。レクリエーションとして毎月おやつ作り、外食を計画している。	テーブル拭き、盛り付け、後片付けなど利用者と一緒にいき、行事食やおやつ作りをして楽しむ工夫をしている。利用者が自宅で使っていた、茶碗・湯のみ・箸を使い、味付けや食材などの話をしながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と1日の摂取量を把握している。夜間ペットボトルのお茶を居室にいつでも補給できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声掛けを見守りをしていて、出来ない方は毎食後の口腔ケアを行っている。		

グループホーム スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を記入し、一人ひとりのパターンと体調を把握し、言葉かけ誘導を行っている。	排泄記録から個々のパターンを把握し、夜間もできる限りトイレに誘導して自立にむけた支援をしている。退院後の利用者には、徐々にオムツをはずす取り組みをして成功した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、体を動かすようにストレッチ体操を行っている。個人々の状態に応じて食事や水分の摂取量に気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に応じて入浴の順番や入浴時間を考慮している。個人の体調や都合に応じて別の曜日や時間に入らせていただくことも行っている。	週3回、午前と午後の好きな時間帯にゆっくり入れるよう支援している。希望に応じた湯温や入浴順を考慮し、入浴剤などを使って楽しみながら入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様、一人ひとりの体調をよく観察して、休息の必要がある利用者様には声掛けを行い、日中でも休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の診察を受け、看護師の管理の下で服用している。症状を看護職員間での確認も日々行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作品作り、食事作りなど作業に一人ひとり参加を呼びかけ、できる分野には積極的に参加していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事として、月3回の買い物、ドライブなど外出支援を行っている。いきいきサロン参加や施設行事の夏祭り等地域の人たちと交流している。	散歩や近隣商店に日常雑貨や嗜好品の買い物に出かけている。利用者の希望を聞き、初詣や花見・外食・道の駅などに毎月出かけている。自宅に泊まる希望者には家族の協力を得て支援している。	

グループホーム スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様よりお金を預かり、買い物に行くときは利用者様にお金を渡し援助を行う。金銭管理は職員が行い家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がTELの利用を希望されたら援助している。手紙はしよくいんが見守り書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南向きの日当たりの良いリビングが明るい外の風景も式が感じられます。換気を心がけ室内の光の調整	乾燥対策のため加湿器を置いたり、カーテンで外光の調整をしたり、換気をこまめにするなどの配慮をしている。季節を感じられるように、職員や家族が持ち寄って花を活けたり、壁にサンタクロースの飾りつけをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、テレビ、カラオケが設置しており、本が好きな方は本棚があり移動には十分な広さをかくほしてあるので自由に利用していただける。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	時分の好きなものをタンスの上に置いたり花を飾ったりされます。部屋には、洗面台があり、口腔ケアは自分で行っています。	持ち込まれた家具などは相談しながら配置している。洗面台には洗面用具や化粧品を置き、箆笥の上に人形や花・植物など好みの物を飾っている。冷蔵庫に好物を入れるなど本人が楽しめるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口はわかりやすく色分けされている。室内にはポータブルを置きできる限り自立した生活ができるようにしている。		